

みどりのゆび

諏訪中央病院グリーンボランティア通信 No.135号 2024年9月11日発行



6月10日に見学会を実施

数年ぶりの見学会は、前日までの心配をよそに朝から晴天に恵まれました。今回の目的地は軽井沢レイクガーデンと軽井沢町植物園。

レイクガーデンはバラの季節には少し早かったのですが、大株に育った宿根草が素晴らしい空間を作っていました。庭師の方

のお話によると、雑草は全ては抜かず見え方を調整しているそうで、私達にとっても参考になるお話を伺えました。また、あの広大な空間をたった5人で維持されていることも大きな驚きでした。

昼食の後は軽井沢町植物園へ。こちらでは担当の方が1時間、それぞれの植物の名前、特徴などを説明してくださいました。私たちの素朴な疑問にも率直に答えてくださって、とても有意義な時間を過ごすことができました。

今回の見学会の計画は冬から立てていました。スタッフ全員初めての体験で、苦労もありましたが、楽しく、事故なく終えられたことにホッとしています。今回参加できなかった方も次の機会はぜひ一緒しましょう。



[中村・刈谷・久保田・黒田]



リンデンの花を摘む

6月に入り、「今年もリンデンがたくさん蕾をつけているよ！楽しみだね！」という声が聞こえてきました。

6月26日、よく晴れた日、大きな木の下に踏み台を持ってくる者、ジャンプして枝を引き留めて摘む者、たちまちそれぞれの籠は薄緑色の花の芳香に溢れました。この花摘みはメンバーの大きな楽しみで、



その日は摘みたてのお茶を味わうのです。

大きな、大きなこの木はまるで母さんのふところのような豊かさで人々を包み込む。大地さえ抱え込むような、おおらかな暖かさで病院の東の庭にある。新緑の美しさ。ひらひらと風に答えるように銀色がかった葉を翻らせながら木陰を作る。ここは特別な

所。人が素に戻り、『様々な想いを語り合い、命が巡り、生と死が混じりあう人生の旅人のための木陰』。萩尾エリ子先生の語られた言葉が心に沁みてきます。エリ子先生のハーバルノートからこの病院の庭に移されて26年と聞きます。幼かったであろうこの木は病院の庭に植えられた時、自分の役割を知っていただろうか。知らなくても、神様はそれぞれに素晴らしく貴い使命を託して、最もふさわしい所に置いて、用いてくださるのだと思うのです。 [馬場]

植物あれこれ：セント・ジョーンズ・ワート

セント・ジョーンズ・ワート（セイヨウオトギリ、*Hypericum perforatum* 右上の写真）はヨーロッパに自生するハーブで、聖ヨハネ（英語ではジョン）の日（6月24日）の頃に花が咲き、収穫するのでこの名が付けられた。古代から利用されてきたハーブで、お茶にしたり、オイルに浸して心を落ち着かせたり、傷や打ち身、日焼け等に使用される。近年、西洋医学的によく研究されてきて、うつ病や免疫系への効果が注目されている。一方、他の薬物の作用を弱めることもあるので、服用には注意が必要である。



日本でもオトギリソウは、止血や鎮痛等に民間薬として利用されてきた。オトギリソウは、秘伝の鷹の傷薬としての秘密を弟が恋人に漏らしたことに怒り、鷹匠の兄が弟を切り殺したという伝説（平安時代、花山天皇の頃）から、弟切草と書く。在来種の同属の中では、高山に咲くシナノオトギリ（信濃弟切）は、草丈も低くこんもりと咲いて美しい（右下の写真）。



園芸では属名のヒペリカムと呼ばれ、いずれも黄色の花が咲き、赤い実の可愛い品種や、ビヨウヤナギ（美容柳）やキンシバイ（金糸梅）などの中国原産の小低木は庭の彩りとして好まれている。[入江]

***** 病院祭のお知らせ *****

10月19日（土）9:30~15:00に病院祭が開かれます。今回は昨年ドライの花束ワークショップ、ハーブティー試飲以外に、新しい試みとして『秋のグリーンバザー』の第1回目の開催（第2回目は11月6日）を予定しています。物品提供を初め、当日の手伝い等、ご協力、よろしくお願いいたします。